

AMDA Journal 号外

ダイジェスト

発行：2009年12月 No.33 定価：100円
 発行元：〒701-1202 岡山市北区櫛津310-1
 特定非営利活動法人 AMDA (アマダ)
 TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959
 E-mail：member@amda.or.jp
 編集：AMDA ボランティアセンター
 ホームページ：http://www.amda.or.jp

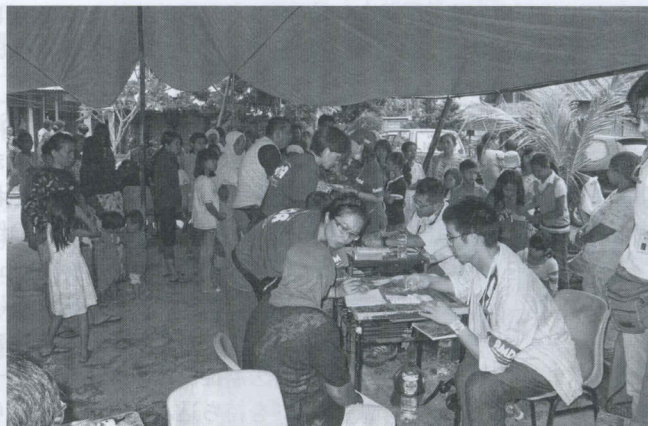
今年1年感謝を込めて

皆様から賜りました温かいご支援に感謝申し上げます。
 10月には4件の異なる災害被害への緊急医療支援活動をほぼ同時に実施し、皆様のお気持ちを被災地に届けてまいりました。
 来る2010年も引き続きご協力くださいますようお願いいたします。

スマトラ島沖地震被害に対する緊急救援活動

2009年9月30日、インドネシア・スマトラ島沖でマグニチュード7.9の地震が発生し、死者1,117人、倒壊家屋13万軒以上の甚大な被害が発生しました（インドネシア政府10月15日発表）。

10月1日、AMDA本部（岡山市）は、日本から津曲医師、光島医療調整員の2人を第1次医療チームとして派遣。同時に、AMDAインドネシア支部医療チームも被災地に派遣しました。翌2日にはインドネシア支部医療チームが、被災地パダンのGeneral Hospitalに外科医と麻酔科医を外科手術応援スタッフとして派遣し、地震による重症者の手術にあたりました。4日からは、日本からの医療チームが中心となり、パリアマン地区にて巡回診療を開始。また、同日、日本から第2次医療チーム（瀧崎医師、細村医師、米田医師、工藤看護師、平井医療調整員）を派遣し、5日から巡回診療に加わりました。巡回診療では、地震による落下物や転倒による骨折や外傷、ショックによる頭痛・めまい・疲労等の不定愁訴、避難生活によるとみられる上気道炎などの患者を診療しました。10月12日、被災地全ての医療機関が機能し始めたこと、地元医療機関の医師半数も現場復帰したことから、AMDAは緊急フェーズでの役割を終えたと判断し、現地協力団体ドンペット・ドゥアファに活動を引き継ぎ、巡回診療活動を終了しました。10月4日から12日までの8日間の巡回診療活動期間中に、約1,130人を診療しました。



被災地パリアマン地区での巡回診療

15年ぶりの活動

AMDA ERネットワーク登録 瀧崎 祐一 医師（神経内科）

子どもたちが、わっと私たちを取り囲みます。前から後ろから顔をのぞき込み、聴診器や血圧計を触ってみたり・・・仮設テントの移動診療所での診療は、たいていこうして始まりました。ここは、インドネシアスマトラ島西スマトラ州の州都パダン近郊の小村です。2009年9月30日に起きたM7.9の大地震による災害を受けて、AMDAが緊急医療援助にいち早く動きました。たまたま勤務が手空きだったので、私も召集に応じてこのように参加したようなわけです。思えば私にとって発展途上国でのフィールドワークは、1994年ルワンダ紛争のとき、これもやはりAMDA主催だったザイール難民キャンプ以来、実に15年ぶりでした。

子どもたちの好奇心を親たちがなだめて、場がいくらか落ち着きを取り戻すまでに流れる短い時間・・・この何ともいえないぬくもりを孕んだひとときが、フィールドワークの感覚がよみがえってくる瞬間のひとつでした。

このたびAMDA本部とインドネシア支部との混成医療チームが、10月1日から現地に入って準備を始め、4日からは10人余りのスタッフが被災した村々を8日間にわたって巡回しました。

活動期間：2009年10月1日～10月15日

第1次医療チーム（10月1日～8日派遣）

津曲 兼司 / 医師 / 医療法人アスカ会所属
 AMDA 多国籍医師団上級顧問

光島 宏美 / 医療調整員 / 医療法人アスカ会所属作業療法士

第2次医療チーム（10月4日～15日派遣）

瀧崎 祐一 / 医師 / AMDA ER ネットワーク登録

細村 幹夫 / 医師 / 医療法人康麗会越谷誠和病院所属 /
 AMDA ER ネットワーク登録

米田 哲 / 医師 / 群馬県立小児医療センター所属 /
 AMDA ER ネットワーク登録

工藤ちひろ / 看護師 / AMDA ER ネットワーク登録

平井 麗子 / 医療調整員 / 医療法人アスカ会所属 運動健康指導士（11日帰国）

【巡回診療・診療件数】

日付	場 所	診療件数
10月4日	パリアマン地区カンボン・コト村（午前） / コロン・パリット村（午後）	約250
10月5日	パリアマン地区ランタ・ミンクドゥナンサバリ	80
10月6日	パリアマン地区ランタ・ミンクドゥナンサバリ	147
10月7日	パダン市アンパン・コタ・パダン	190
10月8日	パリアマン地区トボロ村（午前） / ラワン村（午後）	130
10月10日	パリアマン地区コト・スンガイ村	89
10月11日	パリアマン地区トボ村	145
10月12日	パリアマン地区トボ村	98
合計（※10月4日の件数のみ大よその数、9日は医薬品等の調達を行う）		約1130



【1Pから】

バナナと椰子がどこまでも続く森の中を、細い道がつなぐ村から村へと、私たちは日によって場所を変えながら診療を続けました。民家の多くは、日干しレンガと土で側壁を囲いトタン板で屋根を葺いた簡単な構造の平屋です。村によってはその大多数が倒壊していました。また全壊を免れた場合でも、余震による二次災害を恐れて、ほとんどの住民が自宅の庭でのテント生活を余儀なくされていました。この季節のインドネシアの夜は日本の夏の熱帯夜よりよほど凌ぎやすいので、風邪をひいている人が多く見られたのは、こうしたテント生活が原因のひとつかと思われます。この地の人々はいくら暑くても平気なかわりに、涼しさは応えるのでしょうか。



被災者を診療する洲崎医師

2004年にスマトラ島沖で起きた歴史的なインド洋大地震大津波では、ご存じのように死者22万人以上という甚大な被害ができました。このたびの地震ではこれほどではなかったのですが、それでも最終推定死者数1100人以上、負傷者数3000人余、家屋の倒壊数10万戸といわれています。現地には各国の支援団体が入って、あらゆるサポートを展開していました。ヨーロッパの国々をはじめとして、トルコ、ロシア、中国も支援の手を差しのべていました。例えば、食料・テントの配給や医療提供はもとより、オーストラリア軍は海水の淡水化プラントを持ち込んでインド洋から大量の生活水を供給していました。

しかしどんなに支援を受けても、被災者のダメージがすっかり拭かれるわけではありません。とくに健康や先行きに対する不安が原因と思われるうつ状態が、診療の現場で目立ちました。このことは、災害精神医学ともいべき分野からの地道な対応が必要であることを、私たちに教えています。

さてインドネシアでは、その約90%がイスラム教徒です。私たちの日常も、このお国柄に無縁というわけにはいきませんでした。たとえば診療の最中に、インドネシアのスタッフがそっと席をはずすことがありました。イスラム教徒に課せられた、日に5度のお祈りの時間だということです。また私は滞在中、毎朝4時コーランの朗詠に起こされて睡眠不足に悩まされました。ご存じのようにイスラム圏では、町中いたる所にあるモスクから、大音響のスピーカーを使って聖典であるコーランの朗詠を日に5度放送します。おかげさまで帰国後もしばらくは、時差ボケならぬコーランボケのために朝早く目の覚める始末でした。イスラム圏に足を踏み入れていつも新鮮に映るのは、善悪はわからないのですが、日常の瑣末を超えたところに生活の軸足をしっかりと据えているこうした人々の確信です。いつまでたっても懲りない俗人の最たる輩である私にとって、視座をまったく変えたこの世界は、いつも頂門の一針になるのです。

ある村で、100歳と97歳という姉妹を診ました。二人ともこれといった大きな病気はなく元気いっぱい、とてもそんな歳には見えません。これが、平均寿命、男60歳、女65歳というこの国での話です。信じがたいという以上に、その屈託のない笑顔が、人生の快癒を理屈抜きで教えてくれました。また診療を通じて、輝く目を持ったたくさんの子供たちに接することができました。異なった文化を担い未来を無限に彩るこの地のこうした子供たちが、こよなく私たちを励ましてくれました。助けるつもりが、実は助けられたとはこのことです。フィールドワークのやめられないわけは、このあたりにあるのかもしれない。

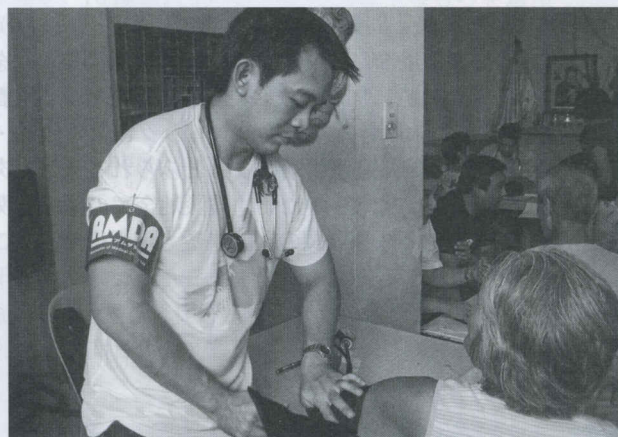
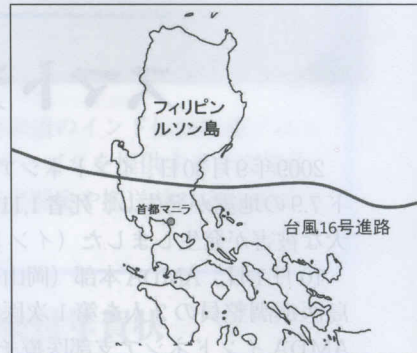
フィリピン台風16号被害に対する緊急医療支援活動

活動期間：2009年9月29日～10月11日

派遣者：

ニティアン・ヴィーラバグ / 調整員 / 本部職員 (9月29日～10月8日)
古城デジー / 調整員 / 倉敷フィリピーノ・サークル代表 (9月29日～10月3日)

フィリピン・ルソン島で9月26日発生した台風16号「ケツアーナ」による大規模な洪水により、マニラ市内の約80パーセントが浸水し、大規模な停電が発生、避難者数は28万人を超える事態となりました。AMDA本部では緊急医療支援実施に向けて、29日ヴィーラバグ調整員と古城調整員をマニラに派遣。フィリピン出身の古城調整員のネットワークを活用し、地元の多くの医師やボランティアの協力を得て、二つの医療支援活動を実施しました。



AMDA合同医療ミッション

<フィリピン空軍所属医師団とのAMDA合同医療ミッション>

10月7日、空軍医師団と古城調整員の所属する倉敷フィリピーノ・サークル関係ボランティアとの合同メンバー11名が、被災地ピピンダンにて500世帯分の生活支援物資の配布と子どものための歯科衛生教育と食料配布を実施しました。また、さらなる台風通過による悪天候のため延期されていた医療ミッションを10月10日バルーンガサで実施。AMDAは抗生剤、風邪薬、ビタミン剤、鎮痛剤、皮膚疾患用薬品、下痢止め等の医薬品と石鹸1300個をフィリピン空軍医師団に寄贈。AMDA合同医療ミッションとして、6人の空軍医師と現地ボランティア医師2人が、被災者を診療しました。

<AMDAフィリピン実施 歯科・医療ミッション>

10月11日、AMDAフィリピン支部長・チュア医師(元フィリピン医師会会長)の主導により、AMSA(アジア医学生連絡協議会)フィリピン支部、マニラ・チャイナタウン・ライオンズクラブ等と協力して、避難所となっているスポーツ施設にて、541人の避難者に対する歯科治療と検査を含む健康診断を実施しました。洪水後の感染症が予想されていたことから、血液や便などの検査を含む健康診断を実施できたことは効果的でした。

倉敷フィリピン・サークルの代表として 支援に参加 古城ディジー

2009年9月29日から10月3日まで、フィリピン台風16号被害に対する緊急医療支援活動に、調査を中心とした目的で、参加しました。私は、岡山県内のフィリピン人の集まり、倉敷フィリピン・サークルの代表として、参加させて頂いたと考えております。このような活動に参加できることは、心の喜びです。

9月29日、私とAMDAのニティアンさんは岡山を出発し、同日午後11時半にマニラに着きました。私の兄と姪の夫が空港まで迎えに来ました。家に着いたのは、翌30日午前1前ぐらだったと思います。翌朝、兄と甥4人で一番災害の大きかったマリキナ市に行きました。いくつかの家があとかたもなく流されていました。また、あちこちに動物の死骸が悪臭を放っており、病気になるかと思いました。噂によると、この近辺には、犠牲者の遺体が横たわっており、これから埋葬するという事でした。

避難所となっているパウチスタ小学校に調査に行きました。この学校には3600人の避難者が生活していて、1教室に13-14家族が生活しています。避難者は、飲み物や食べ物はいろいろな団体から支援が入っていると言っていました。公衆衛生に関しては問題がありました。

30日、フィリピン沿岸警備隊を訪問し、支援内容や支援に必要な医薬品の聞き取りを行いました。その後、私たちは、聞き取りを元に、医薬品を購入しました。10月1日は、大変な雨でした。新たな台風がマニラに近づいているということでした。私たちは、再度フィリピン沿岸警備隊に行き、ミーティングをしました。その結果、医薬品は、3日に配ることが決まりました。残念ながら私はその日、帰国することになっていたため帰国しました。



避難所の小学校で聞き取りをする古城調整員(中央)

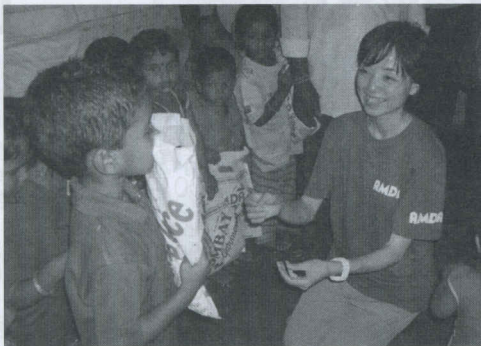
インド洪水被害に対する緊急救援活動

活動期間：2009年10月10日～18日

派遣者：鹿嶋 小緒里 / 調整員

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科助教

2009年9月下旬、インド南部カルナタカ州とその周辺州で、「数十年に一度」といわれる集中豪雨による洪水が発生し、カルナタカ州では、死者約200人以上、250万人以上が家屋を失う甚



学用品を配布する鹿嶋調整員

大な被害が発生しました。AMDA本部は、インド支部及びAMDAと連携協定を結んでいる岡山大学とインド・マニパール大学と協

力し、被災地の調査を実施。被災者への支援物資配布を念頭に、岡山本部から鹿嶋調整員を派遣しました。被災地では、洪水被害により子どもの学用品が不足していたことから、通学カバン、文具、衣服等を配布しました。また、被災地カルナタ州の行政機関との意見交換や被災村の調査を通じ、化学工場から流出した化学物質による井戸水汚染が懸念されていることが判明。インド支部とマニパール大学は、被災者の健康への影響を考慮し、飲料水の調査を計画しています。

サモア諸島津波被害に対する医療支援活動

活動期間：2009年10月13日～20日

派遣者：＜本部派遣＞

ニティアン・ヴィーラバグ / 調整員 / 本部職員 (10月13日～18日)

平野恭介 / 調整員 / 天理教道竹分教会長 (10月13日～18日)

＜ニュージーランド支部派遣＞

リセ・グルート・アルバーツ / 心理療法専門家 (Grief Therapist) /

(10月13日～20日)

南太平洋のサモア諸島付近で、現地時間9月29日午前6時48分ごろマグニチュード8.3の強い地震があり、約5メートルの津波が発生しました。サモア独立国では、死者137人、負傷者310人、行方不明者2人、20村が全壊



医薬品等を寄贈する平野調整員

し、約3500人が避難していました(10月7日WHO発表)。津波発生直後より、カナダ支部、ニュージーランド支部と協力し、現地協力者を通じて被災状況と医療ニーズを確認しました。被災地は道路や橋は修復され、電気と水道は復旧しているものの、津波の恐れから山の斜面で避難生活している被災者が多くいました。被災者は、十分な医療支援を受けておらず、加えて心理的なケアが必要な状況であることも判明しました。

10月13日、AMDA本部はヴィーラバグ調整員と平野調整員を派遣。ニュージーランド支部からは、Grief Therapyと呼ばれる心理療法の専門家であるアルバーツ氏が被災地に入ることになりました。本部派遣調整員はニュージーランド・オークランド経由でサモア入りすることから、途中オークランドで抗生剤や消毒液、伸縮バンドやサージカルテープ等の医薬品類を調達し、サモアに入国。16日、首都アピアの中核病院メドセン医院に、オークランドで購入した医薬品類とニュージーランド支部から送られた注射器・注射針・体温計などを寄贈しました。メドセン医院院長プニ医師は、災害発生直後から被災地での緊急医療に携わり、近い将来被災者が仮設住宅に移動した後も被災者の健康状態を診ることができることから寄贈先としました。

災害発生から2週間以上経った時点でも、多くの被災者が津波を恐れて山の斜面にブルーシートを張っただけの仮住まいを続けており、ショックから無気力状態になっている被災者も多く見受けられました。そこでアルバーツ氏は、地元女性団体 Women in Business Development Inc. や他の支援団体スタッフに対して、カウンセリング技術やトラウマの影響、ストレスサインの見つけ方などの心理ケア研修を実施。今後、これらのスタッフを通じた被災者への心理ケアが期待されています。

ボランティアセンター

全日信販株式会社様よりご支援金



2009年度上半期分支援金寄贈式

全日信販株式会社様 (本社岡山市) より、平成21年度上半期分のご支援金を頂きました。

全日信販様からは、AMDAを通じた社会貢献を実現するため、「AJ(全日信販)AMDAカード」の発行や、カードポイントによる寄付を実施するなど、継続的にご支援を頂いております。過去13年間の累計ご支援額は3,100万円を超え、緊急支援費や事務所運営費等として活用させて頂いています。ご支援ありがとうございました。

インド・ブッダガヤ AMDA ピース・クリニック完成

2008年9月からインド北東部ビハール州ブッダガヤに建設していたAMDAピース・クリニックが完成し、11月1日開所式が行われました。式典には、インド支部長カマト氏、スリランカ支部長サマラゲ氏、地元関係者及び宗教関係者とともに、日本からAMDAグループ代表菅波も参加し、完成を祝いました。クリニックにはスリランカ支部派遣のインド伝統医療アユルヴェーダ専門の医師1人が常駐し、伝統医療のサービスを提供する予定です。将来的には、現代医療の提供、地域病院への患者照会や搬送前の応急処置等を実施したいと考えています。



<ご案内> AMDA 募金付年賀状

株式会社中野コロタイプ(本社岡山市)様のご協力による社会貢献型年賀状「AMDA 寄付金付年賀状」の印刷を受け付けております。印刷費の一部が活動資金としてAMDAに寄付されます。お申し込みは簡単。70種類以上の絵柄からお好きなものを選んで、電話・ファックス・ホームページからお申込み下さい。

<お申し込みは、株式会社中野コロタイプまで>

電話：086-229-9113 ファックス：086-229-3456

ホームページ：http://nenga-dori.com/category/amda_kih.html

AMDA 募金付年賀状

2010「年賀通り」 年賀状印刷

お好きな絵柄を選んで、ハガキ・ポストカード・メールで送って待つだけ！
お手元までお届けします！！

お申し込みは、
AJ AMDAカード
全日信販クレジットセンター
電話：086-292-4222
<http://www.aj-card.co.jp/ajcard/card/5amda.html>

AMDA 募金付年賀状

印刷代金の一部がAMDAの活動支援募金として寄付されます。お申し込みは簡単。70種類以上の絵柄からお好きなものを選んで、電話・ファックス・ホームページからお申込み下さい。

AMDA 募金付年賀状

印刷代金の一部がAMDAの活動支援募金として寄付されます。お申し込みは簡単。70種類以上の絵柄からお好きなものを選んで、電話・ファックス・ホームページからお申込み下さい。

お申し込みは、
AJ AMDAカード
全日信販クレジットセンター
電話：086-292-4222
<http://www.aj-card.co.jp/ajcard/card/5amda.html>



9月27日「かなべ福祉まつり」(広島県福山市)にブース出展



10月31日 おかやまコープ35周年記念「コープフェスタ2009」ブース出展

AMDA 会員募集

	年会費	※医師・一般・学生・法人会員には、活動報告誌「AMDAジャーナル」を年4回、「AMDAダイジェスト (AMDAジャーナル号外)」を年2回、賛助会員には、「AMDAダイジェスト (AMDAジャーナル号外)」を年2回送付しています。
医師会員	15,000円	
一般会員	10,000円	
学生会員	7,500円	
法人会員	30,000円	
賛助会員	2,000円	

*入会ご希望の方は、同封の郵便払込取扱票の裏面をご覧いただき、必要事項をご記入の上ご入会の手続きをお取りください。